

新潟市新津「育ちの森」

平成 26 年度事業報告

特定非営利活動法人ヒューマン・エイド 22

事業実施のための体制

(1)開館時間	月～金曜日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～12:00
(2)職 員	館 長	1 人
	副 館 長	1 人
	受付事務	1 人
	広報担当	1 人
	保育士	1 人
	看護師	1 人
	臨時保育士	2 人
	パート職員	1 人
	パート用務員	1 人
(3)サポート職員	一時預かり・保育ルームの需要に合わせた保育サポーター	適宜
	あそびの広場サポート職員	適宜

1 交 流 事 業

1. あそびの広場(対象：未就園の子どもとその保護者)

利用者と職員、および利用者相互の交流の広場と位置づけている。保護者と子どもが楽しく安全に遊べる場になるよう、採光、換気、衛生に配慮し子どもの年齢に合った遊具を備え付けている。職員が毎日午前午後、手遊びやふれあい遊びを一緒に楽しむ「スポットタイム」を設けている。また、季節行事にあわせた内容のイベントを企画し、地域の祭りや、子どもの日、七夕等日本古来の風習に親しむ機会を設けている。ハロウィン、クリスマス等子どもも大人も楽しめるイベントも実施している。

一人で来館している利用者に声をかけ、孤立させないように配慮している。様々な世代の方との交流をはかれるようロビーにお茶を用意し、子どもを見ながらもくつろげる雰囲気作りをしている。安全面を考慮し、週 3 回(午前 2 回午後 1 回)ベビー専用(1 歳 7 カ月まで)の日を設定している。

(1)開館日時	・日、祝日、年末年始、土曜午後、館内メンテナンスを除く毎日
	午前の部 9:00～12:00
	午後の部 13:00～16:00

- (2)場 所 ・プレイルーム
 ・サークルルーム 1 (部屋の貸出の無い場合 木製レール)
 ・サークルルーム 2 (部屋の貸出の無い場合 ドールハウス、ブロック)
 ・図書コーナー
- (3)利用者数 ・利用数……延べ 17188 人
- (4)チケット売上 ・チケット売り上げ数……11 枚

【表A】 開放区分

	月	火	水	木	金	土
午前	ベビー	フリー	ベビー	フリー	フリー	フリー
午後	フリー 予約相談日	フリー	フリー	ベビー	フリー	休み

季節のイベント開催

4月 22. 23. 24 日	こどもの日祭り 入場者延べ 192 人	12月 16. 17. 18 日	森のクリスマス 入場者延べ 249 人
7月 1. 2. 3 日	七夕祭り 入場者延べ 299 人	1月 27. 28. 29 日	節分スポットタイム 入場者延べ 305 人
9月 18 日	交通安全教室 入場者延べ 73 人	2月 24. 25. 26 日	雛祭りスポットタイム 入場者延べ 289 人
10月 21. 22. 23 日	育ちの森ハロウィン 入場者延べ 254 人	3月 27. 28. 30 日	森の卒業式 入場者延べ 250 人
11月 20 日	虫歯予防イベント 入場者 81 人	その他 5月 20 日、11月 17 日避難訓練 3月 30 日 防犯訓練	

2. サロン

職員がコーディネーターとなり気軽な雰囲気の中で、交流や情報交換などを行った。ゲストを招いてのサロンや、テーマを決めてのサロンなど利用者のニーズを聴きながら実施した。

・パパサロン

父親の育児参加を促すため、毎月 1～2 回実施、職員 1 人がコーディネーターとなり、子どもとのふれあい遊びや木育玩具で遊びながらパパ同士の交流を促し、情報交換を行った。

・ベビータイム

ベビー向けに、タッチケアの体験や初めて育ちの森に来る方を対象として実施。孤立しがちな乳児の母親にきっかけづくりとして来てもらうため実施。紫外線対策や睡眠等をテーマとしたサロンも行った。

・森のサロン

食中毒、防災サロン、トイレトレーニングなど希望のあったテーマで実施。

2. 相 談 事 業

利用者からの相談に常時応じられる体制を整えた。開館時間内であれば随時対応し、電話、Fax、Eメールによる相談も対応。

職員は相談の初期対応を行い、専門的なかかわりが必要な場合は職員間で協議し、時間をかけずに必要な支援が受けられるよう各機関につなげた。

他の利用者に気兼ねせずに相談を受けられるよう月曜午後に相談日に設定した。

相談件数 電話・メール・面談を含め……2102 件

3. 保 育 事 業

一時預かりは病気や通院、リフレッシュなど、一時的に保育ができない場合の子どもを保育した。

また、講座に保育ルームを設け受講者のお子さんの保育を実施。時間や年齢等規定に合わない条件の場合は、他の団体や保育園を紹介するなど外部との連携を図り柔軟に対応した。保育ルームには、職員が2人入り保育サポーターと共に総括・保育した。

1. 一時預かり

保育件数……138 件

平均利用時間……3.07 時間

2. 保育ルーム

(1) 保育数……延べ 335 人

(2) 開 設……55 回

4. 各種講座

育児ストレスや不安の軽減をはかるために、子どもの成長、発育などの知識を得たいという利用者のニーズに応じた計画をたてた。セミナー内で交流や意見交換ができるよう職員がコーディネートした。毎回のアンケート結果を次年度のセミナー企画の参考にするなどセミナーの充実を図った。

(1) 子育てセミナー（育児に必要な情報の提供や子どもとのかかわり方を学習する講座及び、親同士の交流を目的とする講座）

内 容 きょうだいの子育て、メモリーブック作り、サークルセミナー、救急法、メモリアルブック作り、1歳児セミナー、2歳児セミナー、育休セミナー、子育てハッピーセミナー、のびのびストレッチ、再就職セミナー

開 催……年間 37 回

参加者数……延べ 261 人

(2)親子セミナー（交流、不安解消、情報交換を主にするセミナー）

内 容 1. ベビママミニセミナー・タッチケア

開 催 数……年間 11 回

参加者数……延べ 131 人

内 容 2. ベビママセミナー4回連続セミナー

1 回目 オリエンテーション・赤ちゃんとのふれあい遊び

2 回目 家庭内の事故予防と応急手当

3 回目 ベビーマッサージ

4 回目 修了式・交流会

開 催 数……4回連続×5クール

参加者数……延べ 300 人

*ノーバディズパーフェクトセミナー 参加者数……延べ 152 人

*親子の絆づくりプログラム赤ちゃんがきた 参加者数……延べ 68 人

セミナー参加総数 912 人

5. 情報発信

子育て中の保護者の声や様子から情報提供が重要と考え、ホームページ、支援センター便りで最新情報を提供した。地域のコミュニティFM局の番組で、子育てに関する情報をスタッフが企画し、パーソナリティを務め、子育ての現状を市民に情報提供した。また、子育て情報を掲載した季刊情報誌を年 4 回発行し、新潟市内の保育園や公共施設などに 4000 部無料配布した。

- ・情報誌「Cocokara（ここから）」を年 4 回（4・7・10・1 月）編集発行。（B5 版、28 ページ 4000 部）新潟市内保育園・公民館・公共施設・公共機関等を中心に配布
- ・HP を随時アップデート。……年間アクセス数 16804 件
- ・図書コーナーの大人用雑誌、書籍の貸し出し。……年間 322 冊

6. 子育てサークル支援

1. 子育てサークル支援

当館の利用が困難な場合や、地域で仲間づくりがしたい方にとって子育てサークルが果たす役割は重要であると考え、子育てサークルの支援を実施。

- ・サークルリーダーを対象とした研修会を社会福祉協議会と協力して開催。

（年 3 回）・・・参加人数 22 人

- ・サークル同士の交流を目的にサークル限定日を 2 回実施。

参加サークル……14 サークル

2. サークル出張・相談

希望のあったサークルにスタッフが出向き、手遊びやふれあい遊びなどを提供。

サークルの活動を積極的にサポートするため、運営や人間関係、活動内容などの相談を受付対応。多面的なサービスを展開した。

実施サークル……7サークル

※子育てサークルからの要望があり、遊びの講師や保育サポーターの情報提供を行った。

7. 地域との連携

1. 遊びの広場サポーター・保育サポーター研修を実施

遊びの広場、保育に関わるサポーターに対して研修等を実施。サポーター同士の交流、スキル向上を図るため実施。

保育サポーター研修・・・4回

遊びの広場サポートスタッフ研修・・・・・・1回

2. ボランティア育成

地域の人材が子育て支援の現場に活動できる場を設けた。

・手作りおもちゃやエプロンシアターの製作。 月2～3回

・季刊誌「Cocokara（ここから）」の4コマまんが。

学生ボランティアの受け入れと卒業論文の協力。

3. 出前授業

依頼のあった小学校にスタッフが出向き授業を行った「命の大切さについて」

・新潟市立新津第二小学校2年生

8. 次世代育成

1. 中学生の総合学習受け入れ

・新潟市立金津中学校総合学習、1、2年生 14人受け入れ

※子どもとのふれあい遊び。

2. 大学、専門学校実習及び研修

・育ちの森見学後、子育て支援に関する講義を実施

見学実習 7回 66人

(国際こども福祉カレッジ、新潟青陵大学、新潟大学、新潟医療福祉大学、看護医療専門学校)

・新潟大学医学部保健学科看護専攻臨床実習3年生 81人受け入れ

・ボランティア1名 (新潟青陵大学看護福祉心理学科)

9. 協力事業

1. 秋葉区区づくり事業地域ですくすく子育てサポート

・小さな森の広場を中学校区7ヵ所で開催

・中学生とのふれあい体験

・ノーバディズ・パーフェクトセミナー

内 容 参加者同士で子育てに関すること等話合う。

開 催……6回連続×3クール

・親子の絆づくりプログラム赤ちゃんがきた

内 容 初めて子育てする母親が対象、親子の絆を深める内容のプログラム。
開 催……4回連続×1クール

2. 各種委員

地域における子育て支援のコアをなす存在として、当館が蓄積してきた経験、知識、情報を関係機関および外部の団体と共有化し、各種事業の共催、講師、委員の派遣等により行政との協働・連携を推進した。

・各種委員

秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員

新潟市こども子育て会議委員など

新潟市総合計画委員

その他

・視 察

県 内……2件

県 外……6件

・福島県子どもの心のケア事業

福ママリフレッシュセミナー

福ママサロン

支援者研修会

アンケート考察

平成 27 年 2 月～3 月に、育ちの森館内でアンケートを実施。内訳は、ベビーの日(0 歳～1 歳 7 ヶ月まで)50 人、フリーの日(0 歳～未就園児)100 人、合計 150 人から回答を得た。

育ちの森利用者の居住区は、秋葉区在中の方の回答が 86%と昨年同様最も多く、地域に定着してきたことが伺える。今後も、地域で活用できる子育て支援施設としての役割を担っていきたい。

「育ちの森を知った理由」に関しては、口コミが一番多く 42%だった。利用者の満足が新規利用者の拡大に繋がっていると考えられる。

市・区役所便りで知った方が 31%と 2 番目に多く、秋葉区だよりで毎回の掲載が情報発信したり利用するきっかけになっている。

育ちの森を利用する動機についてベビー対象の日は、1 位「のびのび遊ばせたい」2 位「ストレス解消をしたい」3 位は「子どもの友だちづくりをしたい」「手遊びや体操などをさせたい」の順だった。フリー対象の日では、1 位「のびのび遊ばせたい」、2 位「ストレス解消をしたい」3 位「子どもの友達づくりをしたい」「親子とも成長したい」の順でだった、昨年のベビーのアンケートでは、ストレス解消したいが 3 位でだったが今年は 2 位だった、フリーでも昨年 3 位だったストレス解消が 2 位になり親子とも成長したいが初めて 3 位となった。

全体の利用動機の 1 位は「のびのび遊ばせたい」で、満足度(やや満足含)は、94%と最も高く満足していると感じた。子どもたちが、安全にのびのびと遊べる環境を今後も整えていきたい。

2 位「ストレス解消(息抜き)をしたい」に対する満足度は、80%と昨年の 73%に比べ満足度が高くなっている事から親のストレス解消、息抜きの場として活用されていると考えられる。

3 位「親子とも成長したい」の満足度は 72.6%となっている、スポットタイムで親子が楽しめる内容や限定日で人形劇を行い子育てに関わる学びも取り入れている。

保護者自身の「自分の友達作りがしたい」という項目は、37.3%と満足度が低くやや不満足が 5.3%となっている。この結果を受け、森のサロンなど利用者同士で話せる場や、ベビーのママのためのベビータイム、はじめて育ちの森に来るベビーのママのための「育ちの森へようこそ」を行い、ママ同士が交流できるような環境を整えていく。また、連続セミナーや保育が無料のノーバディズパーフェクトセミナー、BP プログラムなど、回数を重ねることで安心して話しができ友達を作りやすい環境の場を設け紹介していく。

全体を通しての満足度(やや満足含)は、90%以上と高い結果となった。この結果に満足することなく、利用者の育児不安の解消や、育児ストレスの軽減になるよう、利用者の満足につながる支援センターの役割を担っていきたい。

要望の欄では、駐車場が狭い、お昼を食べるスペースが欲しい、利用料を無料にしてほしい等がある、応えられないこともあるが、他の支援センターを紹介するなどの対応をしていく。セミナーの内容や応えられる内容に関し検討し実行できるよう進めていく。

自主事業報告書

事業名

パパサロン「木育玩具であそぼう・タッチケア・新聞紙あそび・イヤイヤの対応」

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

実施日時 平成 26 年 4 月 19 日、5 月 10 日、6 月 14、21 日、7 月 12 日、8 月 9 日、9 月 13、20 日
10 月 11 日、18 日 11 月 8、15 日、12 月 13 日、1 月 17 日、2 月 14、21 日、3 月 7 日

実施回数 17 回

総参加者数 66 組の親子 大人 66 人 子ども 69 人

赤ちゃん、子どもの関わり方や遊び方をパパ同士で共有し、共感できる場。
タッチケアでふれ合い、家でも出来るふれあい遊びを体験する。
子どもと一対一で向き合う時間。子どもの好きなあそびを知る機会を持つ。
自分に出来る家事協力、育児協力について情報交換する。

(2) 目的の達成状況

パパサロンの開催が、子育て支援センターに来館するきっかけになったという声もあり、子育てに関心を持つ機会になっていると感じている。パパ一人で子どもを連れて来館される人数も増えている。

子育てしているパパの様子や話から、自主的に質問し、知っている事や自分のケースを情報交換出来ている。

スタッフが常時介入しなくても、パパ同士で子どもを遊ばせながらサロンが成り立つ回も増えてきた。

今年度から、タッチケアをベビー対象のパパに実施しているが、歌いながらタッチする、数を数えながら触れ合うことにも抵抗なく、目指して来館する方も増えた。

(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応

参加者からは、「利害関係がない場で、友だちに対する気恥ずかしさもなく気軽に参加できた」

「家にはない玩具で遊ぶ姿をみて、こんな風に遊べるんだと発見があった」「二人きりでこんなに長時間過ごしたことは初めて、自信ができた」「赤ちゃんへの遊び方関わり方が解らなかったが、タッチケアを家でもやってみようと思った」「ママにもタッチケアを教えたい、自分がママに教えることはないと思っていたが、教えることが出来てうれしい」等の意見もあることから、満足度が高いと感じている。リピーターも増えていることから、今後も継続して開催し、父親の育児参加と家事協力等、家族で子育てできるような働きかけを行って行きたい。

親子で行けるあそび場、パパが連れて行きやすい公園等の情報提供や、困ったときの対応等幅広く対応できるように、情報収集していく。

(4) 収支決算 この事業に係る経費はなし

自主事業報告書

事業名

ベビータイム（フリージング料理・指あみ・タッチケア・育ちの森へようこそ）

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

実施日時	平成 26 年 6 月 26 日、	午後 2 時から 3 時	「フリージング料理」 9 組
	平成 26 年 7 月 28 日	午前 10 時 20 分から 11 時	「指あみ」 3 組
	平成 26 年 8 月 21 日	午後 2 時から 3 時	「タッチケア」 12 組
	平成 26 年 9 月 18 日	〃	「卒乳について」 8 組
	平成 26 年 10 月 16 日	〃	「タッチケア」 9 組
	平成 26 年 11 月 20 日	〃	「タッチケア」 18 組
	平成 27 年 1 月 8 日	〃	「タッチケアでふれあい遊び」 9 組
	平成 27 年 2 月 3 日	〃	「育ちの森へようこそサロン」 6 組
	平成 27 年 2 月 19 日	〃	「タッチケア」 13 組
	平成 27 年 3 月 19 日	〃	「育ちの森へようこそサロン」 8 組

実施回数 10 回

総参加者数 95 組の親子 大人 95 人 子ども 191 人

・初めて育ちの森に来館するきっかけ作りと、赤ちゃんとふれあいながらママ同士の交流を目的に開催。部屋をベビータイム用に用意してあることで、気楽に参加でき、情報交換を行える場として設けた。

(2) 目的の達成状況

・初めて子育てをするママ、第 2 子、第 3 子のベビーのママ同士で、自己紹介後、ふれあい遊びや指あみをしながら、情報交換を行った。回を重ねる毎に参加者が増え、ベビータイムの必要性を感じた。

・ベビータイムに参加後、ロビーのお茶コーナーで参加者同士がお茶を飲んでいたり、そのまま部屋に残り会話を楽しんでいたことから、知り合いになったり、また利用したいと思う気持ちになってくれているようだった。

(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応

参加者からは、「同じような月齢の赤ちゃんを持つ保護者同士が集まる機会が得られてよかった」「今、何を着せていますか？」「夜はなにをかけて寝かせていますか？」など、日常の中で気になってはいても聴く機会がなかったことを聞いてよかったという声もあった。

自分自身の体調面やおっぱいのことなどを話せる場になり、開始直後の表情とお帰り前に表情の変化がみられた。6 月から毎月 1 回から 2 回開催してきたが、次年度も同じような回数で実施をかんがえている。継続しての開催が育児不安の軽減と孤立した育児の予防になっているように思う。

(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない

自主事業報告書

事業名	森のサロン
<p>(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）</p> <p>実施日時 平成 26 年 4 月 25 日 午後 2 時から 3 時 実施回数 1 回 総参加者数 22 組の親子 大人 22 人 子ども 22 人 「子どもの肌と紫外線」</p> <ul style="list-style-type: none">・新潟大学医学部保健学科准教授住吉智子先生より「紫外線の影響、子どもの肌のケアと日焼け予防」について講義後、質疑応答・紫外線の影響からの不安、対策を知る。 <p>(2) 目的の達成状況</p> <p>午後からの開催だったが、参加人数も多く関心の高さを感じた。具体的な対処法を聴くことが出来、紫外線についての話も理解しやすい内容で伝わったようだ。</p> <p>個別の質問タイムも設けることが出来たので、皮膚トラブルのあるお子さんを持つ保護者は専門的な話を聴くことの出来る機会になり、参加して良かったという声もあったことから、目的は達成できたように思う。</p> <p>(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応</p> <p>日焼けと紫外線に関しては、利用者のママからも質問が多い内容だったため、専門的な話を聴く機会となった為、参加者の満足も高かった。</p> <p>「間違った認識に気づくことが出来た」「赤ちゃんに日焼け止めクリームやローションはどうかと思っていたが、質問を受けて専門的な内容を話してもらったので納得できた」等の意見があったことから、紫外線が強くなるこの時期に今後も開催していきたいと考えている。</p> <p>サロンで話が聞けることで、参加費もかからず無料で参加できることが、多くの方から必要な情報を収集する機会になると思うので、今後もサロンとして継続開催して行きたい。</p> <p>お子さんが、眠い等でサロンに入れない方にも、館内の放送で流す、資料を配布する等を行い、聴きたい方が聞ける環境作りを行った。</p> <p>(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない</p>	

※森のサロン事業は、「子どもの肌と紫外線」の他に「防災サロン」「トイレトレーニングサロン」*2「夜泣き、睡眠について」「離乳食」「食中毒」他のサロンを実施。開催回数 6 回開催 参加人数 103 組参加

※いずれも経費は発生しない。

自主事業報告書

事業名

にいつ夏祭り 三之町屋台によるお囃子「松坂流し」

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

実施日時 平成 26 年 8 月 19 日 午前 11 時～11 時 20 分

実施回数 1 回

総参加者数 35 組の親子 大人 35 人 子ども 36 人

目的

- ・新津夏祭りのお囃子新津松坂を楽しむ。
- ・屋台のお囃子をライブで聴き、祭りの雰囲気味わう。

(2) 目的の達成状況

地域のお囃子が、育ちの森でお囃子を披露してくれたことで、小さいお子さんも、祭りに足を運ぶことが出来ない方にも、新津の伝統行事を体験していただくことができた。

みんなで楽しむ時間に設定したことで、笛や太鼓の音に子どもたちも喜んで体を揺らしていた。普段味わうことの出来ない祭りの雰囲気を楽しんでいる様子が伝わったことから、目標は達成できたと感じている。

(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応

初めて聴く、笛や太鼓の音に神妙に耳を傾けていた。

聴きたい方が聞ける環境作りを行った。手拍子を行い、一緒に歌を歌って下さり、楽しんで参加していただいた。今後も伝統行事に触れることのできる機会を作っていきたい。

(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない

※森のサロン事業は、「子どもの肌と紫外線」の他に「防災サロン」「トイレトレーニングサロン」「夜泣き、睡眠について」「離乳食」「食中毒」他のサロンを実施。いずれも経費は発生しない。

※開催回数 8 回開催 参加人数 133 人参加





お囃子が 育ちの森に来る！

8月19日（火）11:00～

【フリーの日】

にいつ夏祭り三ノ町屋台
のお囃子がスポットタイ
ムを太鼓や笛で盛り上げ
ます。

一緒に楽しみましょう！

